

ADVANレーシングタイヤインフォメーション

2010年 SUPERGTシリーズ第5戦

2010.7.25

SUGO GT 300km RACE



横浜ゴム(株)は、フラッグシップ・ブランド「ADVAN」の性能訴求及び企業イメージの向上として、2010年も国内のみならず、海外へも積極的にモータースポーツを支援していく。その活動のひとつであるのが、SUPER GTシリーズ。日本で最も高い人気とハイコンペティションを誇るレースに、ADVANはGT500クラスにおいて、近藤真彦監督率いるKONDO RACINGとのパートナーシップを2010年も継続することになった。HIS ADVAN KONDO GT-Rを駆るのは、ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラと安田裕信の新タッグ。もちろん狙うは開幕戦に次ぐ勝利、そして初のチャンピオンである。

全8戦で争われるSUPER GTは、早いものでスポーツランドSUGOのレースで後半戦に突入する。このコースの特徴は、アクセルを踏んで回るコーナーが多い、典型的なテクニカルレイアウトであること。しかも、アップダウンが激しい

ため、ウエイトハンデの大小が他のサーキット以上に影響をもたらすことでも知られている。幸か不幸か、HIS ADVAN KONDO GT-Rは開幕戦で優勝を飾ったものの、それ以降のレースでは不運な展開が続く、前回のセパンでのレースも9位とあって現時点で積んでいるのは50kg。これはウエイトハンデが足枷にならない、ギリギリの重さだと言える。

今回、持ち込んだタイヤの基本は従来のものを踏襲しつつ、トラクション方向を重視。これは最終コーナーをしっかりと踏んで回ってホームストレートのスピードを高めることによって、1コーナーでのオーバーテイクを容易にするためだ。また、SUGOのレイアウトはセパンに共通する要素は多いことから、前回のレース、

そして昨年のレースから得られたデータを盛り込んで製作されている。きっとライバルチームがウエイトハンデに苦しむのを尻目に、攻めのレースができるはず。狙うは最低でも表彰台だ。

GT300クラスでは谷口信輝/折目遼組のM7 MUTIARA MOTORS両宮SGC7が、予選2番手から積極的なレース運びを見せ、今季2勝目をマーク。その結果、横溝直輝/阿部翼組のアップスタートMOLA Zと、同ポイントでトップに立つこととなった。この2台は80kgのウエイトを積んでいるため、さすがに今回は楽な戦いは

許されまい。とはいえ、できるだけ多くのポイントを稼いで早々とウエイトハンデを100kgにするぐらいの勢いで、今後につなげるレースとするはずだ。

逆に必勝体制で臨むこととなるのが、織戸学/片岡龍也組のウェッズスポーツIS350と、加藤寛規/濱口弘組のアップル・K-one・紫電。ともに今季未勝利で



展開に恵まれていないため、それぞれ積んでいるウエイトは42kg、30kgのみ。マシンとコースの相性がいいことは、過去のレースからも明らかだけに、ここから巻き返しをはかることが期待される。

特に、これらJAF-GT車両はコーナーでタイムを稼いでくれるだけに、重視されるのは馬の背コーナーから最終コーナーでのテクニカル区間で、どれだけボトムスピードを上げられるか。そのあたりを十分配慮したタイヤ造りが行われている。

また、第3戦以来の出場となる、都筑晶裕/土屋武士組のZENT Porsche RSRを筆頭とするFIA-GT車両もストレートパフォーマンスの高さを武器に、タイトルを争い合う車両と互角の戦いを繰り広げることだろう。注目すべきはセパンを休んで、トランスアクスル化などマシンに大胆に手を加えてきた、山野哲也/佐々木孝太組のR&D SPORT LEGACY B4。その効果が結果に結びつくことを期待したい。

なお、天候の激変も予想されるため、両クラスともにウエイトコンディションへの対応も万全に。完璧な判断や選択で、各チームを最大限にバックアップする。



2010年 SUPERGTシリーズ第5戦用ADVANタイヤラインアップ

		GT500	GT300
ドライ用スリック	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (MS, M)	2種類 (MS, M)
	サイズ	Fr 330/710R18, Rr 330/710R17	330/710R18, 280/710R18, 280/680R18, 280/650R18
ウエット用レイン	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (S, M)	2種類 (S, M)
	サイズ	Fr 330/710R18, Rr 330/710R17	330/710R18, 280/710R18, 280/680R18, 280/650R18

SUPER GTに復活させた「ADVANの25番」への想い

土屋武士が語る、SAMURAI Team TSUCHIYA結成＝土屋エンジニアリング復活の背景
そして、ドライバーとして最後の夢、それはADVANカラーの25番に乗ること!

ゼッケン25、それはレースにおけるADVANのエースナンバーである。長年にわたって、さまざまなカテゴリーで不動のポジションを保ち、そして数々の実績を残してきた。だが、そのゼッケン25が土屋エンジニアリングの活動休止によって、昨年1年間だけとはいえ、SUPER GTから消えてしまう。その事実を誰よりも真摯に受け止め、かつ寂しく感じていたのが誰だろう、土屋武士だった。そこで今年は、自ら率いるSAMURAIと土屋エンジニアリングをジョイント。SAMURAI Team TSUCHIYAとして新たなスタートを切り、第3戦からZENT Porsche RSRを都筑晶裕とともにSUPER GTで走らせることになった。それまでの経緯、今後の目標を土屋武士に語ってもらった。



25 SAMURAI Team TSUCHIYA

父親がレーシングチームをやっている、僕が小さい頃からすぐそばにアドバンの25番があり続けていたんですが、いろんな事情で去年1年間、活動休止になっちゃって……。親父のところ、工場がガラーンとしちゃって、それはもう、寂しい思いがしました。

その前の年に僕もフォーミュラ・ニッポンを引退していて、「さあ次のステップは何だろうな」って考えていた中で、やっぱりレーシングチームを大変だろうけどやりたい、やらなきゃいけない、って。もちろんドライバーをやりたいという気持ちもあったんですが、できる限りのことはやらなきゃいけないって思ったんですよ。今、自分がそういうポジションにいるんだからと。で、本当にリスクは大きかったんですけど、やるならば絶対に25番で、とも。

でも、1年休止しているから、今年の2月の頭にエントリーをしないと、そのゼッケンを着ける権利が消滅しちゃうんです。だから、実は見切り発車でエントリー(笑)。「シリーズ後半に出られるようになればいいな」ってボンヤリ考えていたら、昨年アストンマーチンを一緒に乗っていた都筑(晶裕)くんが「一緒に乗りたい」と。じゃあ、ポルシェで出ようと話したのが2月の後半で、決まったのは3月の後半です。

ボンヤリ始めたけど、それが具現化するまでは早かった。ものすごい駆け足で、ダッシュみたいな(笑)。スタッフやいろんなものを僕のチーム、SAMURAIで集めて、うちの親父、土屋春雄が監督の土屋エンジニアリングと融合させて。それはまあ、大変でした。本当にあらゆるものを融合させた中で、実際にスタートさせることができたということには、すごく感慨深いものが

ありましたね。

ただ、現場ではそんなこと、浸れる暇はまったくなかったです。やるべきことに集中しなきゃならなかったし、自分でメカニックもして、いろんな手配をして、しかもドライバーまでしているんですから! そういう部分では、「富士の第3戦をもう1回やれ」って言われても、あんなにパワーは発揮できないでしょう。

ともあれ最高の形でスタートできたんで、これをもっといい形にしていかなければいけないし、親父の培ってきた、いい部分は継承していくつもり。どんどん時代は変わっていくけど、やっぱり古き良き時代のものは継承すべきだと思うんです。なんだかんだ言っても、親父のすごさっていうのは、いろんなチームで僕も乗っているんで、いちばん理解できるんです。やっぱりすごいんですよ。

自分たちの長所というのは開発力にあると思うんで、こういう集団っていうのを作ったかったし、開発という部分で自分にしかできないことって絶対ある。しかも絶対に自分のところに還元できる自信もね。みんなと一緒になっていきたいタイヤやクルマを作って、いいチームを築いていくっていうチャレンジは、すごくやりがいのある仕事。

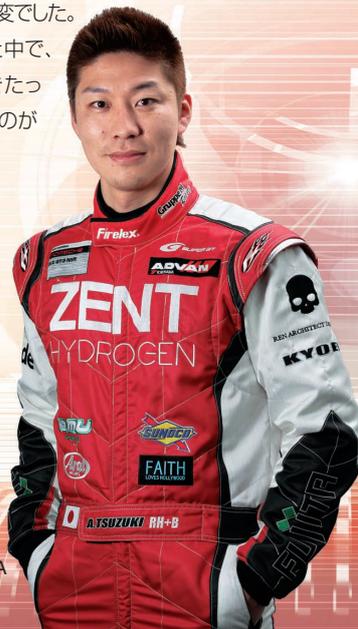
だから今後は少しでも長く、いいチームを続けていきたいな、というのが今の自分の目標で、その先の目標は、ADVANカラーの25番で走りたい。というのも僕、一回もないんですよ、ADVANカラーの25番に乗ったことが!

本当に子供の頃から目の前にあったクルマに、一回も乗れないまま終わるのは悔しいんで、それがドライバーとしては最後の夢なんですよ。

都筑 晶裕

Akihiro Tsuzuki

1977年10月16日生まれ、愛知県出身。00年フォーミュラトヨタでレースデビュー。07年よりポルシェカレラカップジャパンに参戦。翌年08年にはシリーズチャンピオンを獲得。09年GT500に初参戦。アジアン・ル・マン・シリーズではシリーズ2位の記録を残す。10年からはGT300、SAMURAI TEAM TSUCHIYAの1stドライバーとして活躍中。

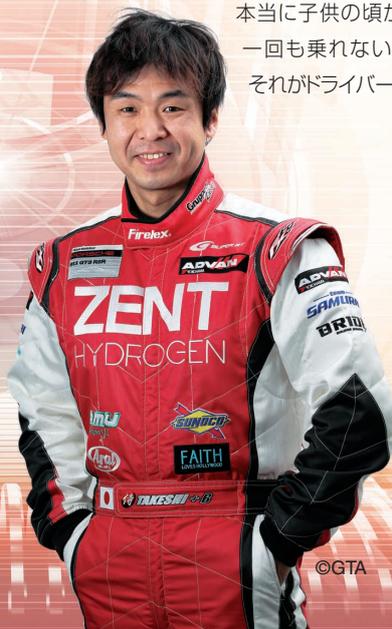


©GTA

土屋 武士

Takeshi Tsuchiya

1972年11月4日生まれ、神奈川県出身。カートレースを経て、92年からFJ1600に出場、オートボリスでデビューウインを飾る。F3を経てGTには98年から出場、GT300で通算4勝を挙げた後、00年よりGT500に活躍の場を移す。10年よりGT300にて活動再開。ランキング最上位は05年の3位



©GTA